

平成28年に新たに発生した病害虫

ばれいしょの黒あし病



本病は、ばれいしょの茎の地際部が黒く軟化腐敗する症状が特徴で、病原菌としてこれまで3種類が知られていましたが、新たな病原菌（ペクトバクテリウム・カルボナータムの亜種ブラジリエンス）が道内でも発生していることが確認されました。

レタスのチューリップヒゲナガアブラムシ



被覆栽培のリーフレタスに体長3~4mm、黄緑色ないし緑色で触覚が体長よりも長いアブラムシが寄生しました。本種はさまざまな植物に寄生し、CMVなどのウイルス病を媒介します。

ほうれんそうのべと病



べと病レース1~8に抵抗性の「カイト」においてべと病の発生が確認されました。

ねぎの腐敗病



JA南そらち・尾崎氏原図

本病は細菌による病害で、ハウス内で育苗中のねぎの葉に3~5mmの不整形で灰白色の病斑、あるいは水浸状の腐敗症状が発生します。病斑部にくびれが生じ、そこから葉が折れ曲がる症状も発生します。

トルコギキョウの炭そ病



後志農業改良普及センター・寺西氏原図



定植直後のトルコギキョウの2~3対目の葉に、淡褐色円形のやや陥没する症状が発生しました。病斑の中央部には、病原菌の胞子がオレンジ色の塊を作る症状が観察される場合があります。

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
0123-89-2001
Central-agri@hro.or.jp

ここでは本年確認されたうちで、主要な病害虫の概要を紹介しました。他の新発生病害虫も含めた詳細な情報は、北海道病害虫防除所のホームページでご確認ください